



明るくやさしさに溢れる石神井中

石神井中だより

練馬区立石神井中学校

校長 山根 浩孝

平成30年6月9日

第3号

思いやり

校長 山根 浩孝

先月の26日土曜日、石神井中学校は、第70回体育祭を行いました。当日は天候にも恵まれ、予定通りに開始することができました。この1ヶ月の間、生徒達は、体育の授業を中心に、朝練習、放課後練習など、毎日、一生懸命に練習に励んできました。「完全燃焼 全力TRY 全力YELL」のスローガンの下、すべての競技を通して、全力を尽くす生徒の姿を見ることができました。どんなに離れていてもゴールを目指して全力で走る姿には、勝敗を超えた皆さんのこの行事にける気持ちが伝わってきました。委員、係や応援する人達は、それぞれの役割を進んで果たし、体育祭を少しでも良いものにしようと努力していました。当日は多くの地域・保護者の皆様に朝早くから最後まで、温かく見守っていただいたことに、深く感謝しています。ありがとうございました。



中学校はみんなで一緒に学習し生活する場所

です。みんなで一緒に学習し、一緒に生活することには、大きな意味があり、社会人として必要なことを、たくさん身に付けることができます。その中のひとつに「思いやり」があります。学校に来ると、いろいろな仲間がいます。とても元気な人、おとなしい人、病気やけがの治療をしている人、特別に支援が必要な人など、それぞれ個性や特性が違う仲間がたくさんいます。

そんな仲間どうしが、助け合ったり、フォローし合ったりするのが学校です。そこで大切になってくるのが「思いやりの心」です。「思いやりの心」とは、他の人の立場を尊重しながら、親切にし、いたわり、励ます心です。「思いやりの心」には、理解と共感がなければなりませんし、一方通行の親切は、本当の意味での「思いやりの心」とはいえないと思います。真の「思いやりの心」には、自分も他人もともに、かけがえのない存在であるという自覚が必要です。「思いやりの心」は人間にとって最も大切な心の有りようだと思います。先日、生徒の体育祭の作文にも、「一人一人の仲間からの励ましがとてもうれしかった。」という感想がたくさんありました。自分のことだけでなく、他の人たちの気持ちを感じ取ることができた人、他の人の気持ちを尊重しようとした人がいたことはすばらしいことだと思います。

4月から2ヶ月が経ちました。皆さんは授業、委員会、生徒総会、体育祭など、多くの場面で、初めての仲間と様々な活動を皆で協力して取り組んできました。そして、その中では、時には間違えたり、失敗したりしたこともあったと思います。間違った人失敗した人に、文句を言い、責めることは簡単ですが、相手の立場や気持ちを考え、共感して理解すること、温かい励ましの言葉をかけてあげることで、互いの関係がさらによくなると思います。



5月の生徒総会では、「生徒の生徒による生徒のための生徒会であれ」のスローガンのもと、生徒会や各委員会より、いじめ0運動など、大切な提案もありました。6月は「ふれあい月間」です。本校でも、生徒たちが明るく楽しく学校生活を送ることができるように、授業や行事等を通していじめについて考え、防止する気持ちを育むことができる機会にしたいと思っています。石中生には、これからも集団の中での様々な活動を通して、先生や仲間とともに多くのことを学び、人の痛みのわかる思いやりのある生徒になってほしいと思います。

